

きくなつても、依然ジツとしたままで茶色の小型の越冬状態を保ち、彼等は著しく遅れて春を知るか、また一部は結局、そのまま春に目ざめないで死んでしまうものも出て来るのである。

だが、こうやつて苦心して自宅で育ててエノキに老熟幼虫を戻してやつても、その数の割りには成虫の飛び廻る数が少ないのは、どこかへ行つてしまうのか、はたまた、最終令幼虫から蛹、成虫と変態するうちに、かなりの数が鳥やら他の昆虫やらの天敵にやられて犬死？してしまうのであろうか。

と云う訳で本冬も、一生懸命で冬と闘っている幼虫を集めに水戸郊外某所の、いつも行く、まるで道しるべのように目立つて存在していた一本の大エノキを懐しく訪れた所、何とそこには、白々しい切り口が残っているだけであつた。昨夏にはオオムラサキが産卵していることを確認しているし（一匹のメスが全部、同じエノキに産卵したとすると、一匹あたり百から二百近くの卵を残した筈である）一方、切り口の根本附近には幼虫がいないばかりか、附近にエノキの枯れ葉もなかつたから、夏の終りか秋にでも切り倒されたのであろう。その白い切り口は、そこで全部殺された国蝶の、まさに墓標であつた。一体この彫りを誰によつつけたら良いのか。本当に日本

人である事が、しみじみ情けなく恥かしくなってくるのであつた。この国では、どうして国民が一木一草にまで愛情をもち、自然を大事にすることが出来ないのであらうか。国民と云つて差しさわりがあるなら、この県の県民である。どんな事でも、こと文化的な事に関したら、一つ残らず、全国47都道府県の最下位にランクされる、

この県。せめてもの文化的な事柄は、イコール環境破壊をもつてして出来上つてはならないのだ、という事が理解されていない県。それなら自然は、この県では、まだ良い方なのであろうか。とんでもない。植物の自然生育度10と9の地域（植物が天然の状態で繁茂しているのが10で、植林されている地域は、これに準じ、一方、自然の植物が全く人工的に壊滅された状況がゼロ）が県土の5%以下しかないのは、静岡以東北海道までの中で、茨城、千葉の2県しかない。つまり、茨城は、自然環境もこれまた徹底的にぶち壊された東日本最低の県ということになる。まともな文化的なもの一つ誇れるものもない茨城県は、同時に自然までメチャメチャに破壊された所なのであつて、かつ、最も問題な事は、県民の殆んどに、そういった認識が一向にないように見受けられる事なのである。筆者が他県人なら、とても嫌味で、こんな事云えた義理でない。しかし私は茨城県人だし、今後も